



なぞって練習

よく使い込んであって、
よい薫物の香のする扇
に、きれいな字で歌が
書かれてある。

心あてにそれかどぞ見
る白露の光添へたる夕
顔の花

散らし書きの字が上品
に見えた。少し意外
だった源氏は、風流遊
戯をしかけた女性に好
感を覚えた。

■ 参考

※薫物【たきもの】

(青空文庫のフリガナより)